浮島校区まちづくりタウンミーティング　開催結果報告書

開催日時　　令和７年８月１８日（月）１９：００～２０：１９
場所　　浮島公民館
司会・進行　　浮島校区連合自治会長
参加者数　　男　２３人　　女　１１人　　合計　３４人

１．市の重点事業に関する質問

【質疑応答】

なし

２．校区課題

校区の防災計画について

（質問者）

南海トラフ地震の発生確率が 30 年以内 80%に引き上げられ、命と暮らしを守るための備

えを強化する必要性を強く感じている。これまでに示されている被害想定は甚大であり、特に本市においても甚大な人的・物的被害が避けられないことが予測されている。この浮島地区の避難場所に指定されている浮島小学校の耐震対策は行っているが、北東の扉はガタがあり、天井材が落ちることはないのかなど不安な要素もあるが、連合自治会防災部の指導の下、今年度避難所運営マニュアルの整備を行う計画である。そこで、次の説明と対応をお願いしたい。

・新居浜市の備蓄品状況

・浮島小学校の備蓄品状況、備蓄倉庫の共有する中で、避難備蓄品リストのデータ提供

（危機管理監）

防災備蓄倉庫には、市が整備しているアルファ米、調理不要米、飲料水及びミルク等の食料品や発電機、投光器等の資機材を保管しており、倉庫内には備蓄物資等の品目、数量がわかるようリストを掲示している。

市では、令和 6 年度まで平成 14 年 3 月に公表された愛媛県地震被害想定調査に基づき、住まいが全壊し、ご自身の備蓄食料等が持ち出せないことが想定される避難者 11,961 人に対して、1 食分を備蓄していた。浮島校区においては、該当する避難者が 336 名と想定されているため、現在、1 箱 50 食入りのアルファ米を 1 箱、1 箱 30 食入りの調理不要米を 9 箱、1 箱 50 食入りのおかゆ（高齢者用）を 1 箱整備し、飲料水 360 本とあわせて備蓄している。また、今年度より、平成 25 年 12 月に公表された愛媛県地震被害想定調査に基づき、住まいが全壊することが想定される避難者 14,680 人に対し、2 食分の 29,360 食を 5 年間で計画的に整備することとしている。浮島校区においては、避難者が 443 名と想定されており、このうち 2 食分にあたる 886 食を整備する必要があるため、令和 10 年度に消費期限を迎えることから、1 箱 50 食入りのアルファ米を 18 箱、1 箱 50 食入りのおかゆ（高齢者用）を 1 箱整備し、飲料水についても入れ替えに合わせて 888 本を備蓄する予定としている。

防災備蓄倉庫では、自治会が保管する物資と混在しないよう管理体制を明確にするため、市が整備した備蓄物資のみを原則として保管している。

市では、自治会及び公民館に備蓄されている物資等の数量を把握していないため、各自主防災組織においては、防災対策の一環として、備蓄品の整理およびリスト化をご検討いただくようお願いする。

（質問者）

自治会内で情報共有できるようデータで管理したいので、今のリストをデータでいただきたい。

（危機管理監）

不定期に備蓄品の入替等を行っているが、備蓄倉庫内のリストが最新なので、それをデータでお渡しする。

（質問者）

自治会の備蓄倉庫がいっぱいになり今後も備蓄品を増やす予定で、避難場所である学校

に置くのがベストなので、市の備蓄倉庫内の空きスペースの提供をお願いしたい。

（危機管理監）

備蓄倉庫で共有してしまうと間違えて持ち出してしまったりしてわからなくなることがある。また、今後国の方針に基づきベッド数を増やす場合にどのくらいのスペースが必要になるか現時点では不明で、尚且つ倉庫は全ての校区で一律に同じではなく、いっぱいになっているところもあり、平等性確保の観点からも、今のところ原則として市の備蓄倉庫には市の備蓄品のみを保管することとしている。防災倉庫はコミュニティの宝くじの毎年 200 万円助成のご活用をお考えいただきたい。

（質問者）

南海トラフ地震の発生確率が 80%になり、危機レベルは上がっていると思っている。被害想定が平成 25 年で、その前が平成 14 年のものとなっているが、だいぶ期間が空いているように思う。例えば徳島市では電源がダウンした場合、何時間以内に復旧する、という細かいデータまで全部あるが、いろんな想定を考えるときに電源はどこから確保するのかとか実際起こったときにどうするのかという部分に関して疑問が多いところが結構ある。どれぐらいのポータブル電源を用意しているのかとか一歩踏みこんだ想定をお願いしたい。

（危機管理監）

被害想定は平成 25 年が最新のものになり、毎年変わっているものはないが、令和 6、7 年度で県が被害想定の見直しを行っているところ。発生確率が 80%に上がって、以前より危機感を持っているため、そこをご理解いただきたい。

マンホールトイレ設置について

（質問者）

被災後に避難所となる学校施設について、トイレは生活必需品で男女別の設置や治安の問題が取り上げられている。市内で未設置小学校は若宮と浮島の 2 校と聞いており、設置計画年は令和 8 年と伺っている。計画とおりに設置を要望する。

（危機管理監）

マンホールトイレの整備については、令和 2 年度より、下水道整備区域内にある小学校を対象に、年 2 箇所ずつ整備を進めており、令和 6 年度末までに市内 10 箇所での整備を完了している。浮島校区については、今年度設計し、令和 8 年度の施工を予定していたが、今年度の交付金において設計費が充当されなかったため、今年度再要望し、令和 8 年度に設計、令和 9 年度施工の予定を考えている。今後、トイレの管理や運営の方針や整備の方向性、設置場所等について協議を行っていく。

（質問者）

国の交付金がないと設置できないとのことだが、いつまでも待てないので 2，3 年要望しても交付金がない場合は、市の予算などで早期に設置をお願いしたい。

（危機管理監）

何年も補助がない場合は、改めて検討します。

浮島小学校体育館のエアコン設置について

（質問者）

避難場所の居住区となる浮島小学校体育館にエアコンを設置願う。近年の高温化、乳幼児や高齢者の体調管理には必需品と考える。設置計画はどのようになっているのか。

（教育委員会事務局長）

小中学校体育館へのエアコン設置については、本年度設計業務を行い、令和８年度に、既に設置済みの別子山小中学校体育館を除く、市内小中学校全 25 校とワクリエ新居浜の体育館に設置予定です。

あと、体育館の北東扉のがたつきは、現場を見せていただきまして、対応させていただきます。

３．その他

（質問者）

耕作放棄地を利用してお米を作るような形で作付けを増やすような取り組みをお願いしたい。（回答不要）

（質問者）

敬老会の交付金が下がり、シニアのいろんな催し物を行っているが費用が足りず、さみしい思いもあるので、交付金の見直しまたはコミュニティ活性化事業として重複して使えないかなど検討をお願いする。（回答不要）

（質問者）

川東支所がなくなって市役所に行くのにバスは不便な中で、どこでもつながるスマホ市役所の実現とあるが、実践教育や学習会など具体的な便利性向上の案があればお願いする。

（市長）

スマホ市役所を掲げているのは、時代はどんどん変わっている中、市民の皆様に市役所に来ていただくというよりは、なるべく市役所が伺うことはできないかもしれないが、市役所まで来なくても手続きが完了するのが理想であると考えている。手続きや支払いなどもなるべく手元でできるようにしたいと思っているが、現在過渡期であり、スマホを使えない方もいる時期であると思う。そこはこれからもハイブリッド体制でやっていきたいと思っている。支所がなくなったことによる不便さについては理解している。

（市民環境部長）

マース車両という公民館等を回り、住民票等の証明書が取得できるというような車両がある。そのようなものを利用していただくほか、スマホが使用できない方のために、スマホ教室を公民館や社会福祉協議会でスマホ講座を無料で実施しているのでそちらもご利用い

ただければと考えている。

（質問者）

デマンドタクシーは一時間だから高齢者が希望したとおりに行かないという話もきくが、始まったばかりなので、これから良くなると思っているので、お願いします。

（質問者）

せとうちバス、デマンドタクシー、その他タクシーで移動しているが、デマンドタクシーは日曜、祝日は休みで、せとうちバスも便数が減って最終便が平日 18 時台で、買い物などに行くのも不便だが、公共交通機関はどのように考えているか。

（市長）

公共交通機関のグラウンドデザインを描きなおそうと協議し始めたところである。今のご意見も参考にしたいと思う。

（質問者）

20 数年前の豪雨の時に床下浸水の被害を受けたが、今の下水路の整備は昔に実施したままで今後どのような計画になっているか。

（下水道課長）

浸水実績があるところから整備していますので、場所を教えていただけたらと思います。

（質問者）

急患センターの建替えはどのような計画でしょうか？

（福祉部長）

急患センターは建替えについては、物価上昇等で建設費が高騰しているため、様子を見ている状況です。現在の施設が 10 年程度利用できるため、有効利用を図りながら再検討を行っています。

<u>市長まとめ</u>

皆さんがおっしゃったようになるべくスピード感を持っていろんなことをやっていきたいと思う。また、災害もそうだがいろんなことを想像力をもって想定し、想定外をなるべくなくすのも我々の仕事だと思う。限られたマンパワーや財源の中、やりたいけどやれない部分もあるが、とにかく頑張っていきたいと思う。本日の対話の中で生まれたものに関しては大切にしていくので、どうぞよろしくお願いする。